

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0792710014		
法人名	株式会社 コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホームかねやま		
所在地	福島県大沼郡金山町中川沖根原1223-1 (電話) 0241-53-1550		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	H20.12.2	評価確定日	H21.1.27

【情報提供票より】(20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年11月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	人
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算8.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000	円	その他の経費(月額)		円	
敷金	有()	円	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()	円	有りの場合 償却の有無		有 / 無	
食材料費	朝食	300	円	昼食	300	円
	夕食	300	円	おやつ	100	円
	または1日当たり					円

(4) 利用者の概要(11月10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1		要介護2		6	名	
要介護3	2	名	要介護4			
要介護5	1	名	要支援2			
年齢	平均	83.1歳	最低	61歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金山町国保診療所
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然環境に恵まれたところにあり、また特別養護老人ホ-ムなどの福祉施設に隣接している。前回の外部評価の要改善項目も職員間の話し合いや運営推進会議での検討を経て改善されている。また、その人らしい暮らしを支援するために毎月行われる介護計画の検討・評価の会議をもとにきめ細かく行われている。さらに、地域との連携もよくホームの夏祭りに地域住民が多数参加している。利用者は、職員との話もはずみ、明るい表情をみせながら生活している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サ-ビスとしての理念、運営推進会議を活かした取組等、外部評価の結果を職員会議で報告し、職員間での話し合い、運営推進会議での検討を経て改善が図られている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価をもとに職員間で話し合い、今回の自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)
	ホ-ムからの報告とともに委員からの質問、意見を受け、意見交換を行っている。地域密着型サ-ビスとしての理念、災害時の地域住民の協力体制などについて提起し、会議で検討され改善が図られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見等はケース記録や業務日誌に記録し、申し送り等で職員間で共有し、検討の上運営に反映するように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者も地域の一員として地区のクリ-ン作戦に参加している。地区の高校生のボランティアを受け入れたり、ホ-ムの夏祭りに地域住民が参加するなど日常的に地域との交流がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の外部評価の結果を受けて、職員会議での話し合い、運営推進会議での検討を経て、これまでの理念に「地域の暖かさを感じながら」を追加し、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、理念に基づく実践について説明を行い理解してもらうようにしている。理念に基づいた実践をするために具体的な課題を取り上げ、理念と結びつけながら職員会議等で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者も地域の一員として地区のクリーン作戦に参加している。地区の高校生のボランティアを受け入れたり、ホームの夏祭りに地域住民が多数参加するなど地域との交流がある。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価をもとに職員間で話し合い自己評価を行った。外部評価の結果について職員会議等で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は地域住民代表も委員のメンバーとして参加し、定期的開催されている。ホ-ムからの報告とともに委員からの質問や意見交換を行っている。出された意見は、理念の見直しや災害時の地域住民の協力など、前回の外部評価結果での要改善項目の改善に活かされている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行しているホ-ム便りに、居室担当者による利用者の1ヶ月の様子の報告、職員の異動報告、ホ-ムでの暮らしぶりを写真入りで掲載し、金銭管理報告と共に送付している。また、必要に応じて家族に電話連絡を随時行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の訪問時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮している。出された意見等はケース記録、業務日誌に記録し、申し送り等で共有化し、検討の上運営に反映させるように努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>自己都合による離職以外に異動はない。異動に際しては、職員の引継ぎ時間を十分とるなど利用者に影響を与えないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を回覧した上で、希望をとり研修参加を推進している。研修は勤務扱いとし、研修報告は職員会議で行っている。今年度は内部研修は行っていないが、書籍を購入するなどして、働きながら日常的に学習することを推進している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グル-プホ-ム連絡協議会に加入し、研修会等に参加しながら、他事業所との情報交換や交流を図っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がどういう気持ちでいるのか、何をしてもらいたいのかを理解するように努め、その思いに添いながら、出来ない部分を支援するようにしている。年長者である利用者から着物の着付けや料理のコツなどを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式(心身の情報)を活用して把握するようにしている。日々の関わりの中で得た気づきや状態変化はケース記録に記入し、職員間で共有している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との関わりの中で得た意向や家族の希望を取り入れ、毎月介護計画の検討・評価を行い、職員の意見をもとに介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の介護計画の検討や期間毎に会議を行い定期的な見直しを行っている。状態に変化があった場合は、家族に連絡して話し合い、その都度介護計画の見直しを行っている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続して受診している。家族同行で受診する際は、本人の健康状態を家族へ伝えるなどの受診支援を行い、受診結果の報告を受けている。職員同行の場合、薬の変更があったような時はその都度家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に救急時や終末期について家族の意向を確認し、事業所としての限界について説明し同意を得ている。家族等の意向を踏まえ事業所としてどこまで対応できるか職員間で話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄ケアに当たっては、他の利用者の前であからさまな対応をしないことなどに心がけている。記録などの個人情報の保管、広報誌における個人情報の扱いについても同意を得るなど適切に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の遅い人や食事時間になっても部屋に居る人がいても、声かけはするが強制するようにはしておらず、利用者の状態や思いに配慮しながら支援している、		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら作っている。利用者は盛り付けや片付けを職員と一緒にを行い、職員は利用者と一緒に食事を楽しみ、さりげなく介助している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴することができるとともに、夜間の入浴も可能であり、利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を支援している。また近くの温泉を月に2～3回定期的に利用している、		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や性格を把握しながら、ホームでの暮らしの中で、掃除、テブル拭き、後片付けなどの役割を果たしてもらっている。毛糸編みや畑仕事、山菜取りなどの楽しみごとの機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	ホーム周辺の散歩や買い物、ドライブ、利用者の友人、知人の訪問など外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。利用者が外出しそうな場合は、止めたりせず、さりげなく声をかけたり、距離を置いて付き添うなど安全面に配慮して自由な生活ができるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回避難訓練を実施している。非常災害時の地域住民の協力体制については、運営推進会議に協力を要請し委員の了解を得た。		消防署の協力を得て、協力いただける地域住民も参加して避難訓練の実施してほしい。また、非常用の食糧や水、毛布などの確保について、隣接する特別養護老人ホームとも協議しながら対策を立ててほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェック表に記録されている。法人の管理栄養士に献立表をチェックしてもらっている。食事でも利用者の状態に応じて嗜好や食べやすさ等に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いフロアはテ - ブル、テレビの前のソファなどが利用しやすくレイアウトされ、行事の写真や花などが飾られている。周囲の見晴らしもよく四季折々の季節を感じる事が出来る。温度や換気、光の調節も適切になされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に持ち込み品が少なくさっぱりした感じがするが、手作りの布団、座布団、写真などが持ち込まれ、自分の部屋として居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙1）を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名

記入担当者名 齋藤 幸枝

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。